

オペラ ラインの妖精

Opera "Die Rheinnixen"

全4幕 ドイツ語上演 字幕付 日本初演

■作曲 J.オッフエンバック
Jacques Offenbach

■台本 C.ニュイテル & J.オッフエンバック
Charles Nutter & Jacques Offenbach



指揮
飯坂 純



演出
八木 清市

1975年発足の当団記念すべき100回目の定期公演には、当時の流行を敏感に捉えて自らの作品を発表する場を開拓し、芸術作品を民衆の糧とした作曲家ジャック・オッフエンバックのオペラを上演致します。「ラインの妖精」はフランスでの活動実績を高く評価され、ウィーン帝国劇場（現ウィーン国立歌劇場）から委託を受け創作されました。彼の作品はフランス語で台本が書かれている事が常ですが、今作品では前述の委託によりドイツ語での歌唱を前提に作曲されました。しかし、不運なことに楽譜は様々な箇所へ散逸され、約15年前に音楽学者のケック氏により楽譜の全貌が明らかになり、モンペリエにて復活上演された後、ヨーロッパ各地で上演の機会が増えた作品です。未完で残された「ホフマン物語」のみがオペラと認識されておりますが、実は「ラインの妖精」こそが完成された唯一のオペラであり、「ホフマン物語」の主たるメロディーが数多く散りばめられた大作です。この忘れ去られたオペラの初演は日本の音楽界の歴史を変える1ページとなること間違いありません。

あらすじ

戦火に包まれる16世紀。ライン地方に伝わる「歌い続けると命を落とし、妖精になってしまう」という言い伝えに基づく男女と親子の愛の物語。農場主ヘドヴィヒが娘アルムガートを愛する狩人ゴットフリートを招き、農夫達と共に収穫祭を楽しんでいる。アルムガートは密かに愛するフランツが戦争に行ってしまったので悲しい心を押し隠すために必死に歌っている。ヘドヴィヒとゴットフリートが止めるが、そこへコンラート率いる軍団がなだれ込み、アルムガートに歌を強要、彼女は更に歌い続け、倒れこむ。娘が死んでしまい、妖精になったと思い込んだヘドヴィヒは、心に響く娘の声に導かれて森に探しに行く…。

5月27日(土)

Cast



アルムガート
梅津 碧



コンラート
羽山 晃生



ヘドヴィヒ
羽山 弘子



フランツ
星 洋二



ゴットフリート
北川 辰彦



妖精
辰巳真理恵



農夫
石塚 幹信

5月28日(日)

Cast



アルムガート
松尾祐実菜



コンラート
米谷 毅彦



ヘドヴィヒ
前坂 美希



フランツ
上原 正敏



ゴットフリート
佐藤 泰弘



妖精
二宮 望実



農夫
白井 和之



《上演会場》
新国立劇場 中劇場
〒151-0071
東京都渋谷区本町1-1-1
TEL: 03-5351-3011
新宿駅より京王新線
初台駅下車徒歩1分

東京オペラ・プロデュース第101回定期公演
G.ドニゼッティ作曲

「ビバ!ラ・マンマ」"Viva la Mamma"

全2幕 歌唱イタリア語 台詞日本語 字幕付
2017年11月11日[土]・12日[日] 両日15時開演
新国立劇場 中劇場

指揮：飯坂 純 演出：馬場紀雄